

エコアクション21

環境経営レポート



令和3年度 《令和3年4月1日～令和4年3月31日》



発行年月日 令和4年6月27日



宮田建設株式会社

目 次



0.	環境方針	
1.	事業の概要	1
2.	環境経営システム組織図	2
3.	基準年度の環境負荷と環境目標	3
4.	環境活動計画の主要内容	4
5.	環境活動取組結果の評価	5～8
	(1) 目標達成状況 評価	5-1 5-2
	(2) 年度別推移	6-1 6-2
	(3) 売上げとの比較推移	7-1 7-2
	(4) 削減による経済効果	8
6.	次年度の活動計画の内容	9
	(1) 二酸化炭素の排出量の削減	
	(2) 廃棄物排出量の削減	
	(3) 総排水量	
	(4) 省資源化・大気汚染排出の削減	
	(5) 建設騒音・振動の発生防止	
	(6) 建設現場地域との協調	
7.	環境関連法規等の遵守状況	10
8.	トピックス	10
9.	代表者によるコメント	11

環境方針

◎基本理念

「建物を建てる」ということの意味を私たちは日々考え続けなければなりません。建物を建てる時、私たちはたくさんの資源を使います。それと同様に、たくさんの人が関わります。

私たちは「建設」という業務を通じて自然との共生を目指す事を使命とし、建設材料や副資材等のグリーン購入に取り組みます。

ロゴマークの由来

宮田建設では、会社のスローガンをロゴマークとして表しています。

それぞれの色・形には意味があり、それぞれが組み合わさることで会社のスローガンである「人と自然との共生」を表現しました。



（環境保全への行動指針）

私たちは、建築設計施工を通じ、省エネ・省資源に配慮した提案や活動を致します。

1 具体的に次のことに取り組みます。

- *CO2削減効果の高い建物の推進。
(エコキュート・エネファーム・太陽光発電の提案)
- *長寿命建築の推進。
(既存建物の調査・診断・改修工事の提案)
- *産業廃棄物の削減はもとより分別を徹底してリサイクルを推進します。
- *グリーン購入の推進。
- *水や電気の使用削減・省エネ運転等の使用エネルギー削減に努めます。
- *IT活用等によるコピー・プリンター用紙の削減。

これらについて、環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2 環境関連法規を遵守し、環境保全のレベル向上に努めます。

3 環境方針は、全従業員に周知するとともに、社外に公表します。

制定日 平成22年2月8日

改訂日 平成23年5月18日

宮田建設株式会社

代表取締役 横井 成昭

1. 事業の概要

- (1) 事業所及び代表者名
宮田建設株式会社
代表取締役 横井 成昭



- (2) 所在地
〒807-0831
北九州市八幡西区則松四丁目3-10

大分営業所：
〒870-0853
大分市羽屋新町2丁目1-8

- (3) 法人設立年月日
昭和46年7月23日

- (4) 環境関係の責任者及び担当者 連絡先
環境管理責任者 代表取締役副社長 横井 久美
環境事務局 総務部 課長 西村 由紀
連絡先 (TEL) (093)602-8818
(FAX) (093)603-3366
<http://www.miyata-kk.com/>
e-mail hello@miyata-kk.com

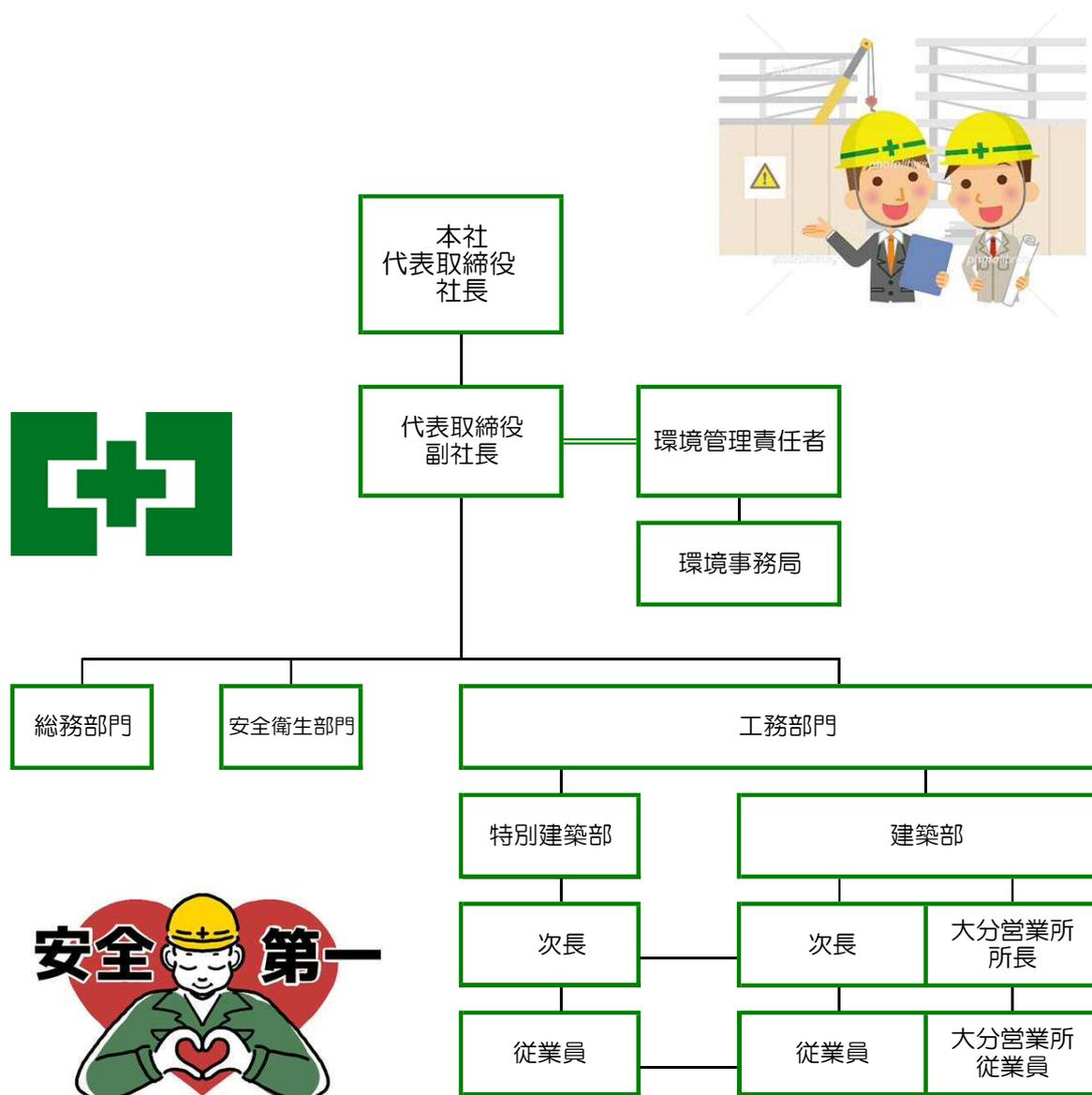
- (5) 主な事業内容
*** 福岡県知事 (特-4)第32172号
建築工事業一式 大工工事業
土木工事業一式 建具工事業
水道施設工事業 内装仕上工事業
とび・土工工事業 塗装工事業
防水工事業 解体工事業
*** 一級建築士事務所登録 第1-20409号

- (6) 事業の規模

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度 (R1)	令和2年度	令和3年度
売上 (百万円/年)	1,751	1,963	2,962	2,549	2,003	2,548	1,958	1,829	1,828	2,165	1,776
従業員 (人)	18	24	23	22	22	23	24	23	25	23	22
床面積 (㎡)	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338	338

当社の事業年度 4月1日～翌年3月31日
※H24年12月1日に(株)筑前工務店と合併、H24年度の数值は合併後4か月を含んだ値を示す。
力所

2. 環境経営システム組織図



* 認証登録範囲は、全社及び全活動です。

3. 基準年度の環境負荷と環境目標

《本社・営業所》

環境目標	単位	H20年度 (基準年度)	H29年度 実績	H30年度 実績	H31(R1)年度 実績	R2年度 実績	R3年度 目標	R3年度 実績	R4年度		R4年度目標 (前年比)
									前年比	目標値	
二酸化炭素排出量	ton -CO ₂	96.4	74.1	69.1	66.4	69.6	69.5	67.2	-0.1%	67.1	-0.1%
電気使用量	千kwh	46.7	25.1	23.1	21.9	26.6	26.5	28.0	-0.1%	28.0	-0.1%
灯油使用量	kℓ	1.4	1.5	1.3	1.2	1.1	1.1	0.6	-0.1%	0.6	-0.1%
ガソリン使用量(現場含む)	kℓ	15.4	15.1	13.0	12.8	12.9	12.9	11.2	-0.1%	11.2	-0.1%
軽油使用量(現場含む)	kℓ	13.2	8.7	9.3	8.7	9.0	9.0	10.0	-0.1%	10.0	-0.1%
液化石油ガス	kg	54.6	10.1	7.4	7.0	8.8	8.8	9.3	-0.1%	9.3	-0.1%
廃棄物(紙くず)排出量(一般)	ton	1.40	0.10	0.05	0.03	0.01	0.01	0.00	-0.1%	0.00	-0.1%
総排水量(給水量)	m ³	176.0	120.5	126.9	87.0	115.0	114.9	120.0	-0.1%	119.9	-0.1%
資源投入の削減(コピー用紙)	千円	126.0	113.2	101.5	43.8	120.9	120.8	41.0	-0.1%	41.0	-0.1%

※上記の目標数値は、大分営業所も含む。

※R4年度の目標数値は、R3年度実績をベースにしています。

※電気の二酸化炭素排出係数は、2020年 九州電力0.479(kg-CO₂/kWh)を用いた。
(R2以前もこの係数で排出量の見直しを行った)

《建設現場》

令和4年度環境目標

No.	目標項目	活動計画
1	二酸化炭素排出量	電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制。
2	商品の省資源化	建築物の長寿命化・省エネ商品を推進するとともに技術提案を行う。
3	大気汚染排出の削減	設計時にZEH/ZEH-M導入の提案を行う。
4	建設騒音・振動の発生を極力防止する	現場周辺の生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工する。
5	地域との協調ならびに景観保存	地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持する。
6	水使用量の削減	バルブの調整により水量及び水圧の調整を図る。又、節水が出来るように車両タイヤの泥落としは現場内でこまめに行う。
7	産業廃棄物排出量の削減	再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底する。

* 建設現場については、年度によって受注量が変わるので、数値目標でなく、環境活動を目標とします。

4. 環境活動計画の主要内容

● 二酸化炭素排出量の削減

- (1) 電気使用量の削減
 - ① エアコンの設定温度を決め実行する
 - ② 昼休み・残業時の不要な照明の消灯
 - ③ エアコン不要季節の時の動力停止
- (2) 灯油の使用量の削減
 - ① ストープの効率使用（重ね着等の励行）
- (3) ガソリン・軽油の使用量の削減
 - ① アイドリングストップの励行
 - ② 不要な荷物は積まない
 - ③ 加速度の少ない運転
- (4) 液化石油ガスの削減
 - ① 給湯器等の効率使用
- (5) 廃プラ焼却「ゼロ」の維持
 - ① 使い捨て容器入りの弁当等の購入禁止



● 廃棄物排出量の削減

- (1) 裏紙使用・ペーパーレス化の推進により、紙使用量の削減
- (2) 再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底する

● 総排水量の削減

- (1) 水使用量の削減
 - ① 小便使用時は小で流す
 - ② 手洗い、洗い物における節水
 - ③ ハルブの調整により水量及び水圧の調整を図る
 - ④ 車両タイヤの泥落としを現場内で行う

● 商品の省資源化

- (1) 建築物の長寿命化・省エネ商品の推進と提案を行う

● 大気汚染排出の削減

- (1) 設計時にZEH/ZEH-Mの導入の提案を行う

● 建設騒音・振動の発生防止

- (1) 騒音、振動による苦情の発生をゼロに維持する
 - ① 低騒音型建設機材の検討採用
 - ② 作業工程の工夫など影響の最小限化

● 建設現場地域との協調

- (1) 建設現場の整理整頓
- (2) 地域住民との環境コミュニケーション



5. 環境活動取組結果の評価

(1) 目標達成状況

《本社・営業所》

環境目標	単位	R2年度実績	R3年度目標		R3年度実績	目標達成の判定
			R2年比	目標値	実績値	
二酸化炭素排出量	ton-CO2	69.6	-0.1%	69.5	67.2	○
電気使用量	千kwh	26.5	-0.1%	26.5	28.0	×
灯油使用量(現場含む)	kℓ	1.1	-0.1%	1.1	0.6	○
ガソリン使用量(現場含む)	kℓ	12.9	-0.1%	12.9	11.2	○
軽油使用量	kℓ	9.0	-0.1%	9.0	10.0	×
液化石油ガス	kg	8.8	-0.1%	8.8	9.3	×
廃棄物排出量 紙くず(一般)	ton	0.01	-0.1%	0.01	0.00	○
総排水量(給水量)	m ³	115.0	-0.1%	114.9	120.0	×
資源投入の削減(コピー用紙)	千円	120.9	-0.1%	120.8	41.0	○

*電気の二酸化炭素排出係数は、2020年度 九州電力0.479(kg-CO2/kWh)を用いた。

《建設現場》

No.	目標項目	取組結果の評価	目標達成の判定
1	二酸化炭素排出量	電気の使用量の削減、廃プラ(使い捨て容器入弁当等)の購入抑制。	○
		*R3.7月に設立50周年記念に『オリジナルボトル』作成し、社員関連企業等へ配付 『マイボトル』運動を行った。	
		R3年度 二酸化炭素排出量 2.893ton-CO ₂ (仮設電気使用量7799kwh)	
2	商品の省資源化	建築物の長寿命化・省エネ商品を推進するとともに技術提案を行った。	○
		*長期優良・地域ブランド住宅事業の補助金により、受注につながっている。	
3	大気汚染排出の削減	設計時にZEH(「ゼッチ」ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス)導入の提案を行っている。	○
		*ZEH「ペロップ」登録完了となり、宮田建設オリジナルZEH-M、2023年2月着工予定でプロジェクトスタート。	
4	建設騒音・振動の発生を極力防止する	現場周辺的生活環境に影響の少ない施工方法や作業方法を検討し施工した。 *25tラフタークレーン等、低騒音・低振動を採用した。	○
5	地域との協調ならびに景観保存	地域の景観を出来る限り保存するとともに、車両出入口において排ガス・道路清掃・渋滞防止の環境対策により、苦情の発生を「ゼロ」に維持した。 *月一回のパトロールにより、整理整頓の強化がよくなっている。	○
6	水使用量の削減	パルプの調整により水量及び水圧の調整を図る。又、節水が出来るように車両タイヤの泥落としを現場内で、こまめに行った。 *「節水」「パルプ取付」と表示することにより、より一層水の使用を気を付けるようになった。R2年度 水使用量378m ³	○
7	産業廃棄物排出量の削減	再生可能品目、石膏ボードの分別を徹底した。	○
		*石膏ボード専用の分別のためのコンテナを設置した。R2年度 排出量3.6t	

(1) 目標達成評価

《本社・営業所》

*前頁より（目標達成項目）

EA21環境活動を取組んで12年、コロナ禍3年目、収束を待つのではなく工夫する時期にきたと思われます。

エアコンを使用しながらの換気、手洗いうがいの徹底や容器の熱湯消毒等、又車両の乗り合いの禁止を継続していることで、電気・軽油・液化石油ガス・水の使用量の達成は出来ていませんが、制限緩和の中でも感染対策を緩めず、取り組みを行う事で、社内より感染者を出すことなく5項目の目標達成ができました。



《建設現場》

宮田建設株式会社は2016年にZEHビルダー（戸建て）、2022年にZEHデベロッパー（集合住宅）に登録されています。



ZEHに係る2030年の政策目標において集合住宅が位置付けられたことを受け、当社においてもZEH-M（ゼッチマンション）の普及促進の実現に向け、環境配慮型の集合住宅のマンション開発に段階的に取り組んでいます。



(2) 年度別推移

1) 電力及び化石燃料

① 使用量

項目	単位	使用量				
		H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度
購入電力	千kwh	25.1	23.1	21.9	26.6	28.0
灯油	kℓ	1.5	1.3	1.2	1.1	0.6
ガソリン	kℓ	15.1	13.0	12.8	12.9	11.2
軽油	kℓ	8.7	9.3	8.7	9.0	10.0
液化石油ガス	kg	10.1	7.4	7.0	8.8	9.3

CO2排出係数	
係数	単位
0.479	(kg-CO2/kWh)
2.49	(kg-CO2/ℓ)
2.32	(kg-CO2/ℓ)
2.62	(kg-CO2/ℓ)
3.00	(kg-CO2/kg)

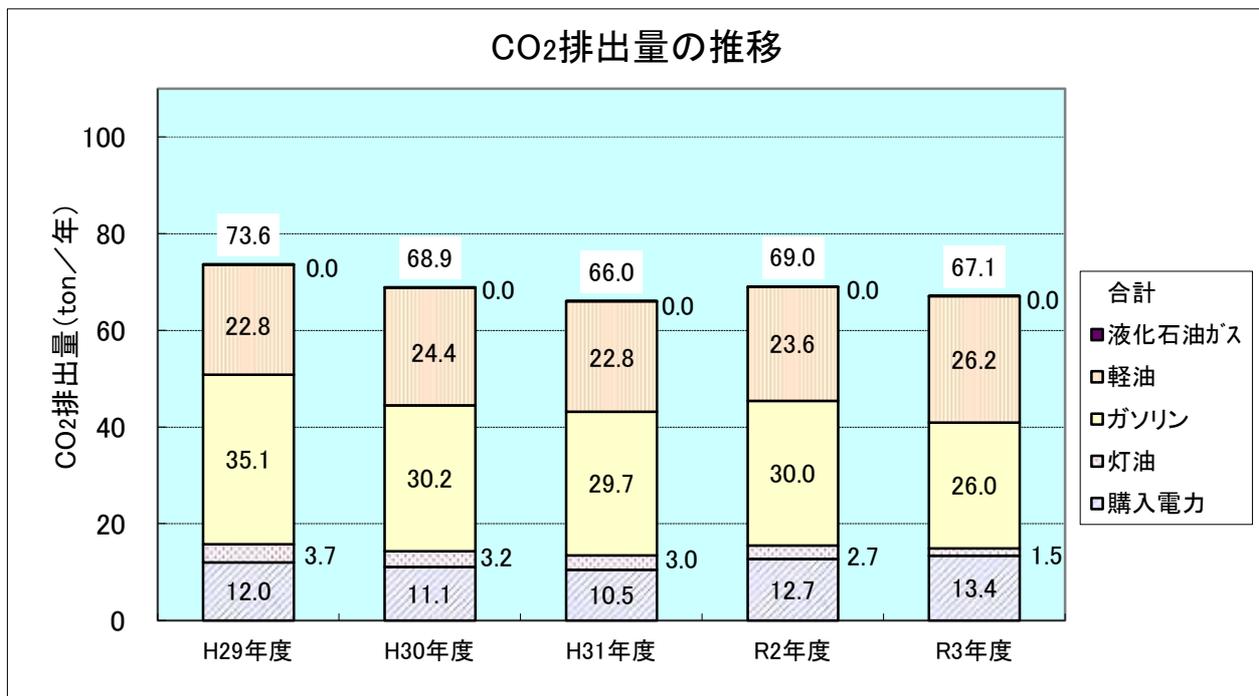
注) 電力の排出係数は

九州電力2020年度0.479 (kg-kWh)

② CO2排出量

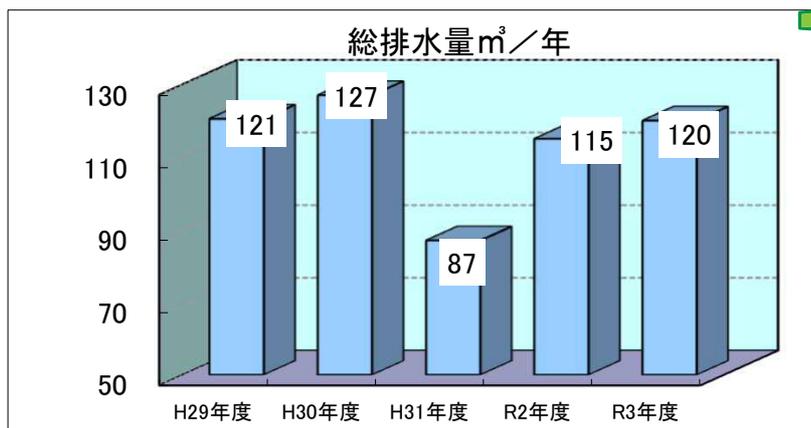
項目	単位	CO2排出量(ton/年)				
		H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度
購入電力	ton/年	12.0	11.1	10.5	12.7	13.4
灯油	ton/年	3.7	3.2	3.0	2.7	1.5
ガソリン	ton/年	35.1	30.2	29.7	30.0	26.0
軽油	ton/年	22.8	24.4	22.8	23.6	26.2
液化石油ガス	ton/年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	ton/年	73.6	68.9	66.0	69.0	67.1

(取り組み開始比H21年度) (82.7%) (77.4%) (74.2%) (77.6%) (75.4%)

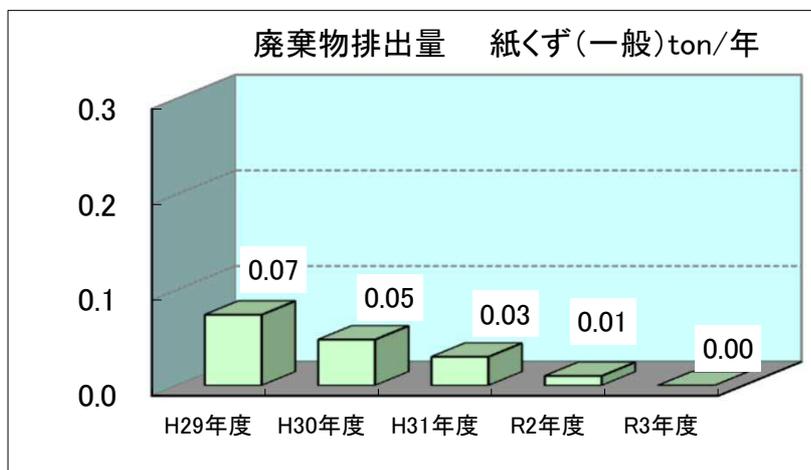


コロナ禍、感染対策を優先に削減の取り組みを行う中で目標の達成が出来ていない項目が4項目ありましたが、H22年度の取り組み以降、社員の削減意識が高いことから取り組み開始以降、CO2排出効果がとても良く出来ている。

(2) 年度別推移 (つづき)



節水に関しては、R2年よりコロナ禍での手洗い、うがいの徹底により、目標の達成が来ていませんが、各自が節水を心がけることで今年度も最小限に抑えられている。

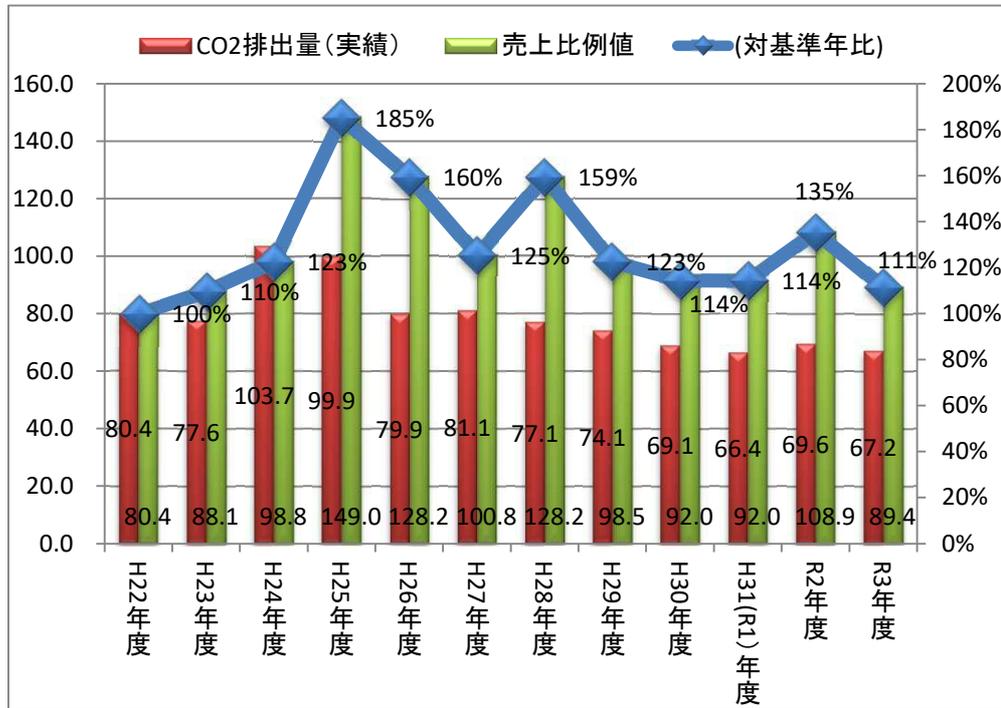


紙くずの排出量は、裏紙使用等で取り組み当初より、大変良く出来ている。

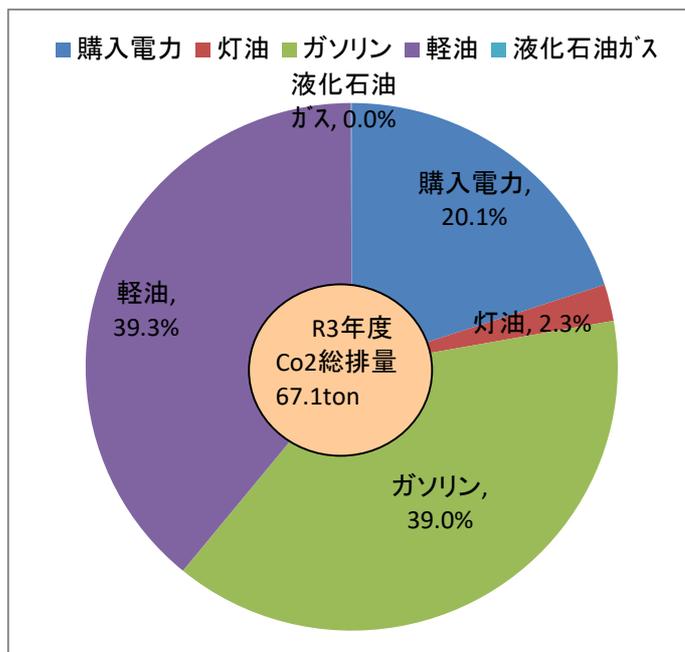
(3)売上との比較推移

(H24.12月より合併のため社員7名増員)

二酸化炭素排出量（本社・営業所）と売上げ



取り組み当初からコロナ禍の今年度まで、受注増減の波がある中でも、各項目の数値がよく抑えられている。

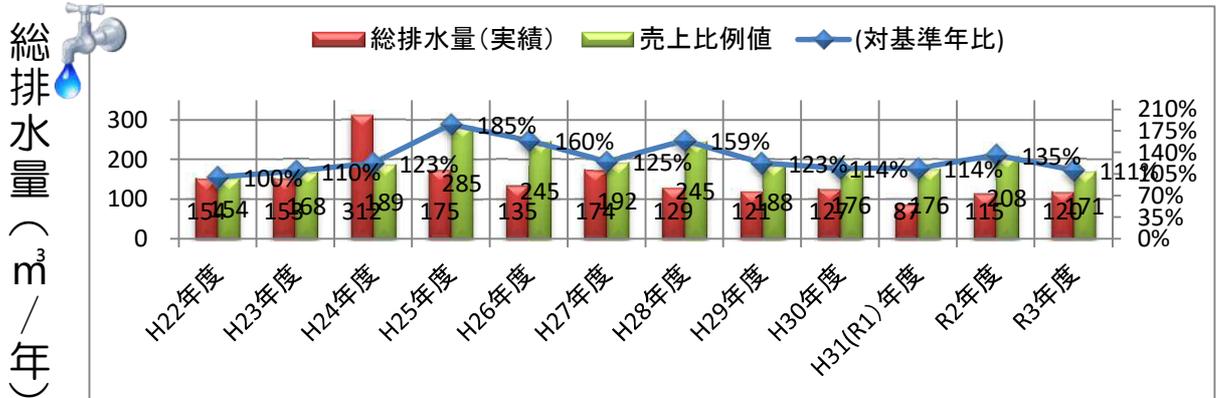


CO2排出量は、ガソリン・軽油が全体の8割弱占める事から、今後も各自が燃費向上の努力を継続する。

(3) 売上との比較推移(つづき)

(H24.12月より合併のため社員7名増員)

総排水量と売上げ



コロナ禍、手洗いうがいの徹底により、目標達成は出来ていませんが、売上げ比例値からすると抑える事は出来ている。

廃棄物排出量 紙くず(一般)と売上げ



裏紙使用が取り組みやすい項目である事から例年、効果を最も維持できている。

(4) 削減による経済効果

【主要3品目の売上げ補正前後の比較】

環境目標	単位	H20年度 (合併後体制へ 按分)	R2年度 実績
売上げ	百万円	2,073	2,165
電気使用量	千kwh	46.8	26.6
削減量	千kwh		20.2
削減金額	千円/年		574
ガソリン使用量	kℓ	23.3	12.9
削減量	kℓ		10.4
削減金額	千円/年		1,421
軽油使用量	kℓ	15.0	9.0
削減量	kℓ		6.0
削減金額	千円/年		675

H22～R2 削減金額 累計
5,808
10,625
5,090

削減金額合計	千円/年	2,669
--------	------	-------

21,523

環境目標	単位	H20年度 (合併後体制へ 按分)	H31(R1)年度 実績
売上げ	百万円	2,073	2,165
電気使用量	千kwh	46.8	26.6
売上げ補正基準値	千kwh		48.9
削減量	千kwh		22.3
削減金額	千円/年		633
ガソリン使用量	kℓ	23.3	12.9
売上げ補正基準値	kℓ		24.3
削減量	kℓ		11.4
削減金額	千円/年		1,557
軽油使用量	kℓ	15.0	9.0
売上げ補正基準値	kℓ		15.7
削減量	kℓ		6.7
削減金額	千円/年		754

H22～R2 削減金額 累計
4,423
10,952
4,827

削減金額合計	千円/年	2,944
--------	------	-------

20,202

環境目標	単位	R3年度実績 補正前
売上げ	百万円	1,776
電気使用量	千kwh	28.0
削減量	千kwh	18.8
削減金額	千円/年	553
ガソリン使用量	kℓ	11.2
削減量	kℓ	12.1
削減金額	千円/年	1,900
軽油使用量	kℓ	10.0
削減量	kℓ	5.0
削減金額	千円/年	661
削減金額合計	千円/年	3,113

環境目標	単位	R2年度実績 補正後
売上げ	百万円	1,776
電気使用量	千kwh	28.0
売上げ補正基準値	千kwh	40.1
削減量	千kwh	12.1
削減金額	千円/年	356
ガソリン使用量	kℓ	11.2
売上げ補正基準値	kℓ	20.0
削減量	kℓ	8.8
削減金額	千円/年	1,376
軽油使用量	kℓ	10.0
売上げ補正基準値	kℓ	12.9
削減量	kℓ	2.9
削減金額	千円/年	377
削減金額合計	千円/年	2,108

*H20年度(基準年度)の数値は、合併後体制の数値に按分して行った。

補正前
R2年度単価 28.4 円/kWh
136.6 円/ℓ
112.5 円/ℓ
運用開始H22年度～R1年度 累計 24,192 千円

補正後
R2年度単価 28.4 円/kWh
136.6 円/ℓ
112.5 円/ℓ
運用開始H22年度～R2年度 累計 23,146 千円

R3年度 単価 29.4 円/kWh
157 円/ℓ
132.2 円/ℓ
補正前 H22年度～R3年度 累計 27,306 千円
補正後 H22年度～R3年度 累計 25,254 千円

取り組み開始(H22年度)以降の主要3品目(電力、ガソリン、軽油)について削減の経済効果を集計した結果、売上げ補正前で毎年平均227万円、補正後210万円程度、効果を上げている。

6. 次年度の活動計画の内容



(1) 二酸化炭素の排出量の削減

当社の電気、ガソリン、軽油の使用排出量は、例年、全体の95%超を占めている。令和2年度より3年度に関しましては、感染予防を優先に考え、エアコン使用中での換気や、車両の乗り合い禁止を続けること等により、電気とガソリン使用量は、目標の達成が出来ませんでした。

これを念頭におき、次年度においても、コロナ感染拡大防止対策を緩める事なく、二酸化炭素排出量の削減を継続していきます。

(2) 廃棄物排出量の削減

「たかが一枚、されど一枚」例年、紙の排出量に関しては、裏紙使用によって大きな成果を上げている。又、使わなくなった資料等、まだ使える紙がないかの見直しとペーパーレス化により、環境への配慮の面だけではなく、働き方改革や業務効率化の効果もある事で、今後も経営課題として取り組む事とする。

又、コンテナに関しては、無駄な廃棄物の排出をしていないかのチェックをします。



(3) 総排水量

コロナ感染拡大防止の中、手洗い・うがいの徹底により、水使用量は、昨年より増え、目標の達成は出来ていませんが、各自が節水を心がけることで最低限の水使用量として抑える事は出来ています。又、雨水タンクの買い替えを行い、次年度も感染防止を優先とし、節水に取り組みます。

(4) 省資源化・大気汚染排出の削減

SDGsの普及により、長期優良住宅やZEHの提案が受入れてもらいやすくなったことで、今後は、戸建て住宅と共に経営課題であった共同住宅のZEH-M（ゼッチマンション）の実現に向けスタートします。

(5) 建設騒音・振動の発生防止

近隣の生活環境を考え、低騒音の機械導入はもとより、休日の作業はしない様、工程を組んでいます。

(6) 建設現場地域との協調

コロナ禍、不安にならない様、現場でも感染対策を行っていることが施主・近隣・地域の方にわかるよう、工事の工夫をしています。



7. 環境関連法規等の遵守状況

(1) 環境関連法規違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の遵守状況の評価を行った結果、環境関連法規等の逸脱はなく、順守している。尚、法的違反や訴訟・苦情について過去12年間ありません。

8. トピックス

TOPICS

「省エネ」と「創エネ」でZEHに対応した集合住宅

ZEHに係る2030年の政策目標において集合住宅が位置付けられたことを受け、当社においてもZEH-M（ゼッチマンション）の普及促進の実現に向け、環境配慮型の集合住宅のマンション開発に取り組みます。

宮田建設株式会社は、ZEHビルダー（戸建て）に続き、2022年ZEHデベロッパー（共同住宅）に登録されました。



ゼロエネルギーで、暮らそう。

地球に



環境配慮

災害時に



安全・安心

家計に



経済性

暮らす人に



健康・快適



9. 代表者によるコメント

エコアクション21環境経営システムを運用して12年、
『未来のために今できること』



2030年のZEHに係る政策目標を受け、ここ数年、経営課題となっている企画検討中のZEH-M（ゼッチマンション）については、省エネ性能の引き上げにより、建築コストが上がる事で、中々実現しませんでした。不動産価値の維持・向上につながるという事を理解してもらうため、自社所有とする集合ZEHの建築を計画致しました。建築と環境商品を通じ、次世代へつなげるライフスタイルを提案することが、私たちの責務だと考えます。

令和3年度（運用12年）コロナ禍での二年、昨年同様に手洗い・うがい、換気の徹底や車両の乗り合い禁止等により、目標項目が半分程度しか達成することが出来ませんでした。取組み（H22年度）開始より12年間で、売上げ補正前で累計2730万円、補正後は2520万円の効果となっています。新型コロナウイルス感染症は人類全体で取り組まなければ解決しない点で、まさにSDGsのテーマの一つといえます。今後も社員一丸となって知恵を組み合わせ『健康経営』を推進しつつ、目標達成への活動を続けていきます。



宮田建設では『人と自然との共生』をスローガンにSDGs、持続可能な開発目標を理解し、取り組んでおります。

「建設」という業務を通じて世界を変えるための17の目標に取り組み、2019年11月に17項目中9つの項目で認定をいただき、2022年5月には16の項目宣言をしております。



令和4年6月27日
宮田建設株式会社
横井 成昭